

ながはま 見聞録

Nagahama Hotnews

1月20日(金)

赤ちゃんに学ぶ「思いやりの心」

びわ北小学校で「赤ちゃんの学校訪問授業」が行われ、5、6年の児童48人、乳幼児10人が参加しました。

児童が赤ちゃんに触れ合うことで、人を思いやる心や社会性を育むことを目的に実施されているもので、今回で3校目。おもちゃであやしたり絵本を読み聞かせながら、次第に赤ちゃんと心を通わせていきます。児童たちに思いやりの心が芽生え、育っていくのが実感できる授業となりました。



1月28日(土)

俳句の裾野広がる

夏井いつきさんの「長浜盆梅展句会ライブ」が開催され、午前午後の公演で約300人の参加があり、会場は熱気に包まれました。夏井さんは、軽妙なトークで参加者の笑いを誘いながら、俳句の基礎や作り方について指導。参加者から発表された句は、どれもその場の情景が浮かぶような力作ばかりで、夏井先生からも「才能ありますよ」の言葉が出るなど、大いに盛り上がりました。



1月29日(日)

「古民家+芸術」でまちおこし

北国街道木之本宿の古民家で、「うだつ劇場」が開かれました。古民家を活用しながら、地域の文化芸術活動を盛り上げようと開かれているもので、今回が2回目。

参加者らは、木之本宿の散策を楽しみ、会場となった古民家で映画「スケッチ・オブ・ミャーク」を鑑賞。この映画の大西功一監督を迎えてのトークショーのあとは、多彩な湖北の郷土料理を囲んで交流会を楽しみました。



1月29日(日)

「長浜のまつり」を研究

市内小学4～6年生を対象とした歴史に関する自由研究のコンクール「長浜城H-1グランプリ」の表彰式と作品発表会が、臨湖で行われました。

曳山祭のユネスコ無形文化遺産登録を記念して「わたしたちのふるさと 長浜のまつり」がテーマ。13作品の応募がありました。

工夫を凝らした研究内容と、身振り手振りを交えた分かりやすい発表に、会場から大きな拍手が送られました。



このコーナーは、長浜の見どころ、市民の皆さんの活動の様子やまちで見かけたほっとな話題を紹介します。あなたが知っている旬の話題などがあれば、市民広報課（☎65-6504）までお知らせください。市公式Facebookページでもさらに詳しくみることができます。

<https://www.facebook.com/nagahama.hotnews>

「長浜 ほっとにゅーす」

検索

2月6日(月)～9日(木)

地域を救うボランティア活動

余呉町中河内で、集落の除雪支援「第3回ワークキャンプ余呉」が実施されました。長浜北ロータリークラブ、立命館大学ボランティアサークル、社会福祉協議会職員、一般公募の有志など約40人が参加。高齢化が進み住民だけでは困難となった除雪作業を、3泊4日の日程で行いました。最終日には地元住民との交流会も行われ、ボランティア活動を通じて温かい人のつながりが生まれました。



2月11日(土)

子どもの目線で鋭く質問

市内の小学5、6年生ら25人が集まり、子ども議会が市議会会議場で開催されました。長浜東ロータリークラブの主催で実施されたもので、合併後初の取り組み。実際の市議会と同様、市長をはじめ市幹部が子ども議員の質問に答弁しました。議員たちの鋭い質問の中には、自分たちだけでなく高齢者や乳幼児のことを考えたものもあり、満員の傍聴席でも大きくうなづく姿が見られました。



2月11日(土)

県民に愛され続け100周年

「琵琶湖周航の歌100周年記念シンポジウム」が長浜バイオ大学で開かれました。これは、同歌の歌碑建立を目指す「ながはま琵琶湖周航の歌100周年事業実行委員会」が行ったもの。同歌を研究する飯田忠義さんの講演で歌にまつわる様々なエピソードが紹介されたほか、古典落語やコンサートなどで盛り上がりしました。最後は全員で琵琶湖周航の歌を大合唱し、まちぐるみで100周年を祝おうと思いを共有しました。



2月11日(土)

きもの姿で「和」を学ぶ

浜湖月および慶雲館で「長浜きもの早春のつどい」が開催され、きもの姿の男女約80人が参加しました。

狂言師茂山逸平氏の講演「日本の和らい」では、能楽の歴史や、能と狂言の表現方法の違いなどをユーモアを交えて紹介。その楽しみ方を学びました。その後は、盆梅のライトアップと全国きものデザインコンクールの入賞作品を観賞。幻想的な雰囲気の中、盆梅と新しい感覚のきものに感嘆の声が漏れました。

